

平成30年度
事業計画書

平成30年 4月 1日から
平成31年 3月31日まで



公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

基本方針

生命科学に係る学術振興、知識普及・啓発、産学連携を通じた神奈川県内の生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与するという当財団の目的を踏まえ、「健康・医療」の成長・発展分野において、学術振興や産業振興を行う高度な専門家集団として、関連事業やプロジェクトを進めてまいります。

併せて、平成 30 年度中に策定される横浜市の新たな中期計画におけるライフイノベーション施策を踏まえつつ、今後財団が行っていくべき事業の方向性を議論し、財団の次期中期経営計画を策定します。

事業の柱については、第 1 に、木原均博士の業績を記念した学術振興や知識普及として、「木原記念財団学術賞」、「木原記念こども科学賞」の授与を継続します。

第 2 に、共同研究開発等の企画・推進として、横浜市のライフイノベーション推進施策「LIP. 横浜」による市内中小企業、大学等研究機関等での様々な研究開発プロジェクトの支援・創出を行うほか、官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発事業に引き続き取り組みます。

また、横浜バイオ医薬品研究開発センター（YBIRD）において、バイオ医薬品開発等を加速させるための遺伝子組み換えタンパクの受託調製や共同研究などを進めるほか、事業のあり方等の検討を行います。

第 3 に、産業活性化の支援として、「LIP. 横浜」施策等による中小企業支援、ビジネスマッチング、出展支援等に取り組むほか、引き続き横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークによる情報発信や、このネットワーク内の連携体であるバイオベンチャー・アライアンス（BVA）の運営を通じた連携の支援を行います。

第 4 に、バイオ関連企業の集積拠点として、横浜バイオ産業センター（YBIC）の安定運営に努めます。

この計画は、横浜市など関係する機関・自治体の平成 30 年度予算案が議会などで可決することを停止条件とする計画です。

I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発

(当該事業に係る予算規模 ㊸年度：3百万円、㊹年度：3百万円。以下、同様に表記)

1 学術奨励事業

(1) 木原記念財団学術奨励事業【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っており、今後のさらなる発展が大きく期待できる研究者（満50歳以下）について、学会、大学及び公的研究機関に推薦を依頼し、応募者の中から選考の上、最も優れた研究者に「木原記念財団学術賞」を授与します。

【実施概要】

- ・募集期間：平成30年5月～9月（予定）
- ・選考：選考委員により1名を選定し、平成31年4月に発表
- ・授賞式・講演会：平成31年5月（予定）

2 生命科学知識普及事業

(1) 木原記念こども科学賞【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

神奈川県内小・中学生の科学の芽を育み、生きものに関する科学研究を奨励するため、作品を募集・選考し、小学校低学年・高学年・中学校の各部門において優れた作品を「木原記念こども科学賞」として表彰します。

優秀な作品をホームページで紹介することで、子どもたちの生きものへの興味や関心を引き出します。

また、表彰式当日に体験学習型の講演会「小さい実験」を開催します。

【実施概要】

- ・募集期間：平成30年7月～9月（予定）
- ・選考：選考委員により、各部門最優秀賞、優秀賞、努力賞を選定（人数制限なし）
- ・表彰式：平成30年12月（予定）

Ⅱ 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進

(㊸ : 274 百万円、㊹ : 305 百万円)

1 共同研究開発事業等

(1) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム (LIP. 横浜) の推進と特区の活用

【区分：相談・助言】

「LIP. 横浜」補助事業の一環として、横浜市内のライフサイエンス系企業・研究機関に対する以下のような支援を通じ、研究開発を推進します。

ア 横浜市内中小企業及び大学等の個別相談支援

横浜市内の中小企業及び大学等研究機関が実施する研究開発プロジェクトに対する支援を実施するとともに、新たな研究開発プロジェクトの創出に向けた支援を実施します。総合特区等の各種制度の活用により研究開発が推進されるものについては、その活用も支援します。

イ 横浜市内アカデミアのシーズ紹介イベントの実施

上記支援等で見出した市内のアカデミアの有望シーズにつき、アピールの機会を提供するイベント等を開催し、市内外の企業等との連携を推進します。

(2) 官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発事業【区分：技術開発・研究開発】

医薬品を用いた治療において発生しうる重篤な副作用、特に薬物性肝障害、間質性肺炎および重症薬疹に関し、発症前の予測や早期診断へ利用するためのバイオマーカーの探索・検証を、国立医薬品食品衛生研究所、民間製薬企業等との共同プロジェクトとして、YBIC内の研究室にて行います。

当事業は日本医療研究開発機構 (AMED) からの受託事業であり、事業期間は最長平成31年度までを予定しています。

(3) 戦略的基盤技術高度化支援事業【区分：技術開発・研究開発】

民間事業者及び公立病院等が共同研究している「血中の微量金属測定によるがんリスク診断技術の開発」において、事業管理機関として事業管理を行います。

当事業は経済産業省関東経済産業局からの補助事業であり、本年度は最終年度として、がんリスク解析アルゴリズムの決定と金属元素バランス差異発生メカニズムについて医学的エビデンスの確立研究を予定しています。

2 バイオ医薬品の研究開発事業等

当財団が運営管理している横浜バイオ医薬品研究開発センター（YBIRD）を活用し、以下の事業を行います。

（1）YBIRD事業【区分：技術開発・研究開発、講座・セミナー・育成】

ア 受託共同研究事業

大学や公的研究機関、企業からの受託により、次の研究等を行います。

- ・バイオ医薬品等のシーズの調製方法の研究
- ・高次評価試験や臨床試験に必要な品質及び数量のサンプル調製等
- ・理化学機器等の性能評価試験の支援
- ・製造における各プロセス（生産株構築、培養、精製、品質管理）の効率化等を目指した共同研究

イ 教育・人材育成

不足しているバイオ医薬品研究開発に係る人材を育成する研修事業を、関係企業、大学等とも連携して行います。

ウ 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合（MAB組合）との連携

最新のバイオ医薬品技術の開発への寄与とYBIRD事業の機会拡大を目的に、経済産業省が主導するMAB組合へ参画し、マスターセルバンク研究開発事業に協力します。

エ その他

横浜バイオ医薬品研究開発センターの運営に関しては、市外郭団体経営向上委員会からの助言を踏まえ、事業の進め方や運営のあり方の検討を行います。

（2）革新的バイオ医薬品創出技術開発事業【区分：技術開発・研究開発】

横浜市立大学を代表機関とする革新的バイオ医薬品創出技術開発事業（AMED事業）である「糖タンパク質バイオ医薬品の糖鎖の高機能化のための解析・制御・管理システムの開発」において、分担機関として「抗体糖鎖制御・管理が可能なシングルユースパーフェュージョン培養システムの開発」を行います。

本事業は30年度までの4年間の予定のプロジェクトであり、本年度は企業への技術移転を推進します。

Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援 (㊸ : 45百万円、㊹ : 50百万円)

1 事業化支援

(1) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム (LIP. 横浜) の推進

【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

「LIP. 横浜」補助事業の一環として、横浜市内のライフサイエンス系企業に対する以下のような支援を通じ、活性化を図ります。

ア 着実な製品化・商品化を目指して横浜市内中小企業等の事業計画の策定を支援するとともに、横浜市内中小企業等が自ら事業計画を策定する上で有用なセミナーを開催します。

イ 横浜市が実施する各種イベントへの参加や金融機関とのマッチングをサポートすることにより、横浜市内中小企業等の資金調達機会を創出する活動を実施します。併せて、木原財団が有するネットワークを通じて得られた資金調達に資する情報の提供などの支援も実施します。

ウ 横浜市内中小企業等への個別訪問・ヒアリング等を実施するとともに、ライフサイエンス分野で事業を行う際の課題に応じた助言その他の個別支援を実施します。

2 ネットワーク促進、活用事業 (マッチング)

(1) 成長ベンチャー情報発信事業【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言】

神奈川県からの委託事業で、県内のベンチャー企業を展示会等において紹介するとともに、マッチングを図ることで、当該ベンチャー企業の成長を促進する支援を行います。

(2) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営【区分：該当なし】

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する各種情報やセミナー等の情報発信を行います。

(3) バイオベンチャーアライアンス (BVA) 運営【区分：該当なし】

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク内の企業・大学などの連携体であるBVAの事務局として、中小・ベンチャー企業に対し、各種相談や公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなど事業発展につながる支援を行います。

3 出展支援・広報

(1) バイオジャパン出展支援【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言】

神奈川県、横浜市、川崎市と連携してバイオジャパンにパビリオンを設け、域内に立地する中小企業の出展や販路拡大等を支援します。

4 クラスタースタート事業

(1) クラスタースタート【区分：該当なし】

他地域のクラスタースタートとの産学連携・産産連携等の企画や情報交換等を行い、横浜・神奈川地域のバイオ産業の活性化を目指します。

IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営（③⑩：111百万円、②⑨：104百万円）

(1) 横浜バイオ産業センター事業【区分：施設の貸与】

バイオ産業集積の拠点として、横浜バイオ産業センター（YBIC）の貸与により、バイオ関連企業や研究機関の研究開発を支援します。交流会の開催や定期的な消防訓練の実施などにより、良好な研究環境を提供します。

また、各室の電気量計の法定交換工事を行うほか、YBICが31年度に建設から10年目となることを見据え、施設の現況把握とそれに基づく大規模補修の必要性や今後の長期修繕計画に沿った設備更新・修繕の実施につき検討します。

(2) 横浜バイオ医薬品研究開発事業

前述、II-2に記載。